

「主の食卓に招かれた人は幸い」

・ ミサ聖祭の意義 ・

„THE LAMB’S SUPPER. The Mass as Heaven on Earth” Scott Hahn

「子羊の晩餐-ミサは地上の天国」 スコット・ハーン著



● スコット・ハーンのみサの体験



「新たな活力を得て、古代キリスト教の研究に没頭した結果、教父である初代司教たちも私が毎朝見つけるものと同じものを発見していたことがわかった。彼らは**黙示録を典礼の鍵とみなし、典礼を黙示録の鍵とみなした。**」（「子羊の晩餐-ミサは地上の天国」 35-36 ページ）

● 二つの基礎

● ヨハネの福音書と黙示録の対象者と目的

① 「両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちは既に、イエスをメシアであると公に言い表す者がいれば、会堂から追放すると決めていたのである。」 ヨハ 9:22

「人々はあなたがたを会堂から追放するだろう。しかも、あなたがたを殺す者が皆、自分は神に奉仕していると考える時が来る。」 ヨハ 16:2

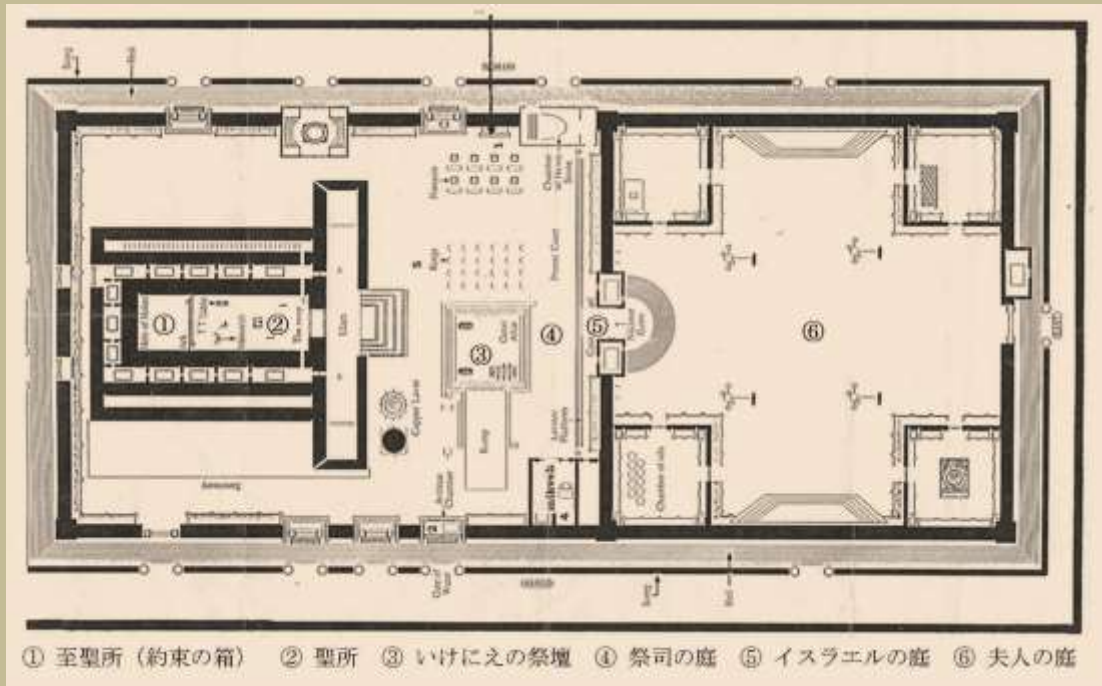
● 旧約時代の役割

② 「神の御子が地上に来られたことは重要な出来事でしたので、神は幾世紀にもわたってそれを準備なさいました。「最初の契約」に見られる祭儀とささげ物、前表や象徴などを、キリストへ向かうように仕向けられました。さらに神は、イスラエルの相次いで起こった預言者たちの口を通して、キリストを告げられました。そのうえ、異邦人の心のうちにもキリストの到来へのおぼろげな期待を抱かせました。」（カトリック教会カテキズム 522）

● 復活されたイエス・キリストの指示

● 新しいエルサレム

③ 「また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。」 黙 21:2



④「これらすべては、主の御手がわたしに臨んで記されたもので、計画された工事の全貌を理解させてくれる。」
代上 28:19

- ✧ 天の宮庭をモデルにして建てられたエルサレムの神殿
- ✧ 天使たちの礼拝を反映したものでした。

⑤「イエスは言われた。『婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。...しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。』」ヨハ 4:21.23

- ✧ 天使たちと共に礼拝する
- ✧ 祭司の民が神のみ前に（天国）住む

⑥「それで、兄弟たち、わたしたちは、イエスの血によって聖所に入れると確信しています。イエスは、垂れ幕、つまり、御自分の肉を通して、新しい生きた道をわたしたちのために開いてくださったのです。」ヘブ 10:19-20

⑦「そのとき、神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。」マコ 15:38



⑧「イエスは答えて言われた。『この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。』...イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。」ヨハ 2:19.21

- ✧ 新しい神殿であるイエス・キリスト
- ✧ キリストの神秘的なからだである教会（すべてのキリスト者）

⑨「あなたがたは、自分の体がキリストの体の一部だとは知らないのか。...知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。」 1 コリ 6:15.19-20

⑩「事実、神に完全な栄光が帰せられ、人が聖化されるこのような偉大なわざにおいて、キリストは、ご自分の最愛の花嫁である教会をつねにご自身とともにあらしめ、教会は自らの主を呼び、主によって永遠の御父に礼拝をささげるのです」(カトリック教会カテキズム 1089)。

⑪「地上の典礼において、われわれは天上の典礼を前もって味わってこれに参加している。天上の典礼は、旅するわれわれが目指す聖なる都エルサレムにおいてささげられており、そこにはキリストが、聖所と真の幕屋の奉仕者として神の右に座しておられる。われわれは、天のあらゆる軍勢とともに主に栄光の賛歌を歌い、聖人たちの記念を尊び、彼らの交わりにあずかることを望み、われわれのいのちであるキリストが現れ、われわれもキリストとともに栄光のうちに現れるときまで、救い主、われわれの主イエス・キリストを待ち望むのである。(「典礼憲章」8、カトリック教会カテキズム 1090)

☆ 天上の典礼が行われる新しいエルサレムは、キリスト者が小羊の晩餐を祝う場所におりてくるのです。

● キリストの到来

- ⑫「わたしは、すぐに来る。あなたの栄冠をだれにも奪われないように、持っているものを固く守りなさい。」 黙 3:11
「見よ、わたしは盗人のように来る。裸で歩くのを見られて恥をかかないように、目を覚まし、衣を身に着けている人は幸いである。」 黙 16:15
「見よ、わたしはすぐに来る。この書物の預言の言葉を守る者は、幸いである。」 黙 22:7

● 屠られた小羊 (イエス・キリストのいけにえ)

- ⑬「わたしはまた、玉座と四つの生き物の間、長老たちの間に、屠られたような小羊が立っているのを見た。」 黙 5:6
⑭「兄弟たちは、小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、彼(神の御前で彼らを告発する者)にうち勝ち、死に至るまでもそのいのちを惜しまなかった。」 黙 12:11
⑮「その翌日、ヨハネは、自分の方へイエスが来られるのを見て言った。『見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。』」 ヨハ 1:29
⑯「いつも新しい練り粉のままでいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種の入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。」 1 コリ 5:7

- イスラエルの過ぎ越し
- 過越祭

⑰「エジプトの国で、主はモーセとアロンに言われた。・・・あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。この日は、あなたたちにとって記念すべき日となる。あなたたちは、この日を主の祭りとして祝い、代々にわたって守るべき不変の定めとして祝わねばならない。」 出 12:1-14

- イエス・キリストの過ぎ越し

⑱ 小羊は 「...十字架につけられて復活されたキリスト、真の聖所の唯一の大祭司、「ささげ、ささげられ、与え、与えられる」かたです。...」(カトリック教会のカテキズム 1137)

- イエス・キリストの過ぎ越しの記念であるミサ

⑲「感謝してこれをさき、そして言われた、『これはあなたがたのための、わたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい』。食事ののち、杯をも同じようにして言われた、『この杯は、わたしの血による新しい契約である。飲むたびに、わたしの記念として、このように行いなさい』(コリ 1 11:24-25)。「一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福してこれをさき、弟子たちに与えて言われた、『取って食べよ、これはわたしのからだである』。また杯を取り、感謝して彼らに与えて言われた、『みな、この杯から飲め。これは、罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のために流すわたしの契約の血である。』」(マタ 26:26-28)。

● 小羊の婚宴

- ⑳ 「それから天使はわたしに、『書き記せ。小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ』」 黙 19:9
- ㉑ 「こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。」 創 2:24
- ㉒ 「恐れるな、もはや恥を受けることはないから。うろたえるな、もはや辱められることはないから。若いときの恥を忘れよ。やもめのときの屈辱を再び思い出すな。あなたの造り主があなたの夫となられる。その御名は万軍の主。あなたを贖う方、イスラエルの聖なる神／全地の神と呼ばれる方。」 イザ 54:4-5
- 「若者がおとめをめとるように／あなたを再建される方があなたをめとり／花婿が花嫁を喜びとするように／あなたの神はあなたを喜びとされる。」 イザ 62:5
- 「だが、妻が夫を欺くように／イスラエルの家よ、お前はわたしを欺いたと／主は言われる。」 エレ 3:20
- 「告発せよ、お前たちの母を告発せよ。彼女はもはやわたしの妻ではなく／わたしは彼女の夫ではない。彼女の顔から淫行を／乳房の間から姦淫を取り除かせよ。」 ホセ 2:4
- ㉓ 歌雅 1:2-4
- どうかあの方が、その口のくちづけをもって / わたしにくちづけしてくださるように。
ぶどう酒にもましてあなたの愛は快く / あなたの香油、流れるその香油のように
あなたの名はかぐわしい。 / おとめたちはあなたを慕っています。
お誘いください、わたしを。急ぎましょう、王様 / わたしをお部屋に伴ってください。
わたしたちもあなたと共に喜び祝います。 / ぶどう酒にもまさるあなたの愛をたたえます。
人は皆、ひたすらあなたをお慕います。
- ㉔ 「黙示録でベールを剥がしたものの、それは聖なるご聖体のうちに完成した天と地の一致であった。この書の最初の言葉は示唆に富んでいる。通常、「黙示録」と訳されるアポカリプシス(apokalypsis)という言葉は、直訳すれば「ベールや覆いを外すこと」である。ヨハネの時代、ユダヤ人は一週間近くかけて結婚の祝いを行ったが、一般的にアポカリプシスという言葉はその祝いの一部に用いられた。男女の性的営みによって結婚が完全なものとなるその直前に、処女である花嫁のベールを持ち上げる。この儀式がアポカリプシスと呼ばれた。そして、これがヨハネの意図した意味であった。」(「子羊の晩餐・ミサは地上の天国」198ページ)

● 聖なるコムニオ（交わり・一致）・聖体拝領

- ㉕ 「わたしは御名を彼らに知らせました。また、これからも知らせます。わたしに対するあなたの愛が彼らの内にあり、わたしも彼らの内にいるようになるためです。」(ヨハ 17:23-26)
- ㉖ 「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。」ヨハ 6:56

◇ 聖体拝領と夫婦の交わり（性的な営み）の類似

- 愛は、相手のために生きるという無条件の決断である（commitment, コミットメント、献身、傾倒、誓約である）。
- 「私たちは夫婦として、順境にあっても、逆境にあっても、病気の時も健康の時も、生涯、互いに愛と忠実を尽くすことを誓います。」
- 夫婦の交わりは、身体の言語による愛の告白と結婚誓約の更新であると同時に、結婚の目的である二人の一致の先取りである

◇ 聖体拝領、つまりキリストの体を自分の体に頂くことは、キリストとの完全な一致の実現を目指す、愛の交わり（相互の奉獻）であり、その一致の先取りであります。

◇ 聖体拝領するキリスト者は、イエスへの愛を表し、洗礼の約束、つまりキリストと一つになるためにキリストに従い、キリストから与えられた使命を果たすことによって、キリストに自分を奉獻するという約束を更新します。